

令和6年度 総社中央小学校情報活用能力系統表(案)

学習サイクル等			ポイント	低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）
説明	学習サイクル	キーワード				
習得・活用の学びの過程で知識を得たことで生まれる	問い	違和感・問題意識・好奇心 等	気付きから問いを立てる力	対象に対しての発見に、?や!をつけて表現することができる。	「なぜ～なのか?」など、理由を追求する問いを立てることができる。	「もし〇〇だったら～か?」「〇〇はどのように～か?」など、多面的・多角的に問いを立てることができる。
実社会・実生活に関わる自分事として捉えることができる			課題の設定	目的意識・相手意識をもつ 応えは一つに限らない	課題設定の力	目的意識をもって、課題を設定する経験を積む。
実験、観察、調査、体験、本、新聞、インターネット など	情報の収集	的確な情報検索 (基礎的で汎用性の高い能力)	キーボード入力等	ローマ字表等を活用しながら文字入力に慣れ親しむ。	・ホームポジションを意識して、視写入力で、1分間にひらがな20文字以上を入力できる。 ・記号等の入力ができる。	・タッチタイピングを意識して、患者入力(感想等の文章作成を想定)で、1分間に漢字変換を含み30文字以上を入力できる。 ・視写入力で1分間にひらがな60文字以上を入力できる。 ・文字変換ショートカットキーの利用ができる。
			インターネット検索	・特定のサイトから情報を得る。 ・キーワード検索を体験してみる。	キーワードを考えたり、組み合わせたりして検索し、一定の情報を得ることができる。	AND、OR、NOTなどの論理演算子を用いた検索等で、情報を絞り込むことができる。
			カメラ機能の活用	・カメラ機能を適切に使って、写真や動画を撮影できる。 ・意図をもって写真を撮影し、印をつけるなどの簡単な加工ができる。	・意図に合わせて写真や動画の取り方が工夫できる。 ・撮影した写真や動画を使って、資料作成ができる。 ・学習した情報モラルを守り、保存等を適切に行うことができる。	活動の途中経過等を写真や動画で記録し、振り返りに役立てることができる。
			収集の方法	・友達や身近な人に聞く。 ・観察する。 ・図鑑等の図書から情報を得る。	・実験する、調査する ・知りたいことを質問にまとめて、インタビューする ・事典等の図書や新聞、動画等から情報を得る ・外部と手紙でやり取りする	
教科等の見方・考え方を働かせ、比較、分類、取捨選択する など	整理・分析	考えるための技法 (思考スキル・シンキングツール)	思考スキル	「順序立てる」「比較する」「分類する」などを中心として学習に生かす。	発達段階に応じて、活動に適した思考スキルや、代表的なシンキングツールを活用できる。	
			得た情報の価値付け	得た情報に対して、自分の感想を表現する。	体験等で分かったこと、人から聞いたこと、インターネットで調べたことなどを明確に区別し、優先順位を考えることができる。	・目的に応じて、情報を取捨選択する ・異なる情報は妥当性を吟味し、調べ直しを行うなどして追求し、表現伝達の際には誤解のない表現を使うことができる。
アイデアの創造、表現手段の選択、プレゼンテーション など	まとめ・表現	アウトプットの場 (社会的な経験)	成果物等の作成	・各学年、各教科等で目指す表現方法・・・新聞、レポート、リーフレット、ポスター、演示 など ・ハイパーリンクの設定、QRコードの作成		
			プレゼンテーション等	写真や絵などを使って、伝えたいことを表現することができる。	・動機や活動の手順などをきめて構成できる ・自分の思いや考えを表現することができる ・調べたことなどを4枚程度のスライドで表現することができる ・スライドと原稿の表現の違いを理解し、スライドにはキーワード等の端的な表現を用いる。	・表やグラフ等を効果的に用いて、説得力を高める工夫ができる ・目的に応じて、表現を工夫し、レイアウトを整えることができる ・自分が至った考えやアイデアを示す ・他学年や他クラス、他校の児童、保護者などへプレゼンテーションする場を提案し、聞き手とのやり取りを取り入れる ・プレゼンテーションに対する感想や意見を受け入れる
学習成果の意義、自己の変容を自己評価・相互評価する	振り返り	学び方の定着 (情報の収集の仕方、整理・分析の仕方、表現や伝達の仕方等の情報活用能力)	学び方の振り返り (情報活用能力を中心に)	ICT活用の良さや友達と学ぶ良さに気付く。	次の学習に生かせることや更に工夫できそうなことに気付く。	以前の学び方と比較して学び方の汎用性に気付く、自己の成長を認知する。
				【例】 授業の振り返りをフォームとした場合、他者の考えを見ることが自分の考えの蓄積がしにくいことが想定されるので、スプレッドシートを活用して振り返りを蓄積していくことをすすめたい。スプレッドシートだと、他者の考えをリアルタイムで見ることができ、さらにシートに今までの振り返りを蓄積することができるので、自己の変容をみることもできる。		

◇端末の扱いは、タブレット活用系統表や校内のきまりを見て確認すること。
 ◇『STAGE 3』の授業をするには、授業を考える際に6つの学習サイクルを加えること、課題の設定を大切にしながら授業計画を立てること。

参考資料：教科等におけるICT活用事例集 STAGE3編 第二版(令和4年3月 岡山県教育庁義務教育課)